



こんなサインに注意

次のような行動や態度は、子どもの心の健康に問題が生じているときに表れやすい兆候の例です。



向き合ってますか こどもの心。

7月は「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」

受け止めてますか 非行のサイン。

注意！夏休みの解放感

学校が夏休みになる7、8月は、その解放感から子どもたちが非行に走ったり犯罪被害に遭ったりする機会が増える時期です。内閣府では毎年七月を「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」と定め、非行防止や有害環境浄化に関する国民意識の高まりを目指しています。この強調月間の機会に「非行を防ぐ」を特集しました。

青少年による殺人や暴力などの凶悪事件をはじめ、薬物乱用、性非行、いじめなど、子どもたちをめぐる諸問題が深刻化しています。それまでまったく問題行動の見られなかった子どもが、突然ナイフで人を傷つけるなど「いきなり型」の非行の増加も注目されています。

しかし、そうした非行に走る子どもたちは、本当に「なんの問題もなかった子」だったのでしょうか。子どもたちのさまざまな態度や行動に、心の揺らぎを読み取れる危険信号、いわゆるサインが込められてはいなかったでしょうか。

親をはじめ、周囲の大人たちに求められているのは、



日ごろから子どもの心にきちんと向き合い、子どもの声に耳を傾ける姿勢です。

「難しい年ごろだから好きにさせておこう」といった安易な理解をせず、表情、言葉、健康状態、生活サイクル、交遊関係など、あらゆる側面のさまざまな兆候から子どもの変化を受け止めることが大切です。

2000年の少年非行 (資料/警察庁)

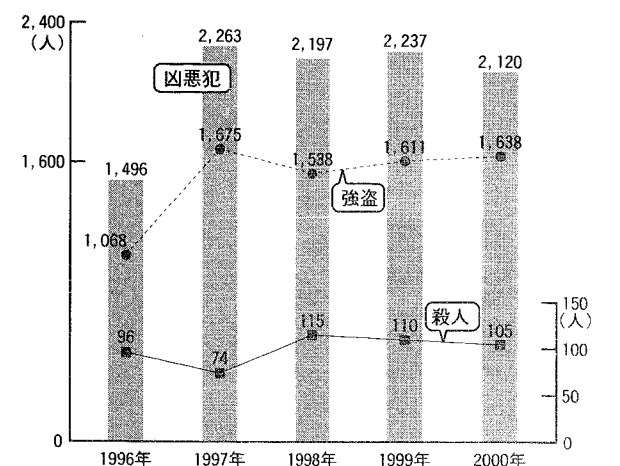
● 刑法犯少年は13万人

昨年全国で検挙された刑法犯少年は13万2,336人。前年に比べて6.6%の減少でした。凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦)は2,120人で前年比5.2%の減少ですが、4年連続で2千人を超えています。粗暴犯(障害、恐喝など)は1万9,691人で、前年比23.6%増で1988年以降最悪を記録しました。覚せい剤乱用少年は1,137人で前年比14.2%の増加です。

● 少年の犯罪被害も深刻

少年の凶悪犯被害は、1,916件(前年比19.8%増)、粗暴犯被害は2万3,487件(36.0%増)、性犯罪被害5,608件(28.4%増)とすべて増加しています。児童虐待事件も増えています。昨年は186件(55.0%増)で検挙人員は208人(60.0%増)。死亡した児童は44人(2.2%減)です。

少年凶悪犯(殺人・強盗)の推移



暴力

子どもが衝動的に暴力をふるう理由については、さまざまな意見があります。子どもに我慢を教えなかった、大人が感情的にしゃべったり暴力をふるったりした結果として子どもも同じように行動する、などの声です。その一方で、自分の気持ちを言葉にするのが苦手なため、怒りや不安、ストレスを安易に暴力で表現するといった一面も指摘されています。

子どもが自分の感情を言葉で表現できるように、子どもの話をじっくりと聞く時間を大切にしてください。

薬物乱用

覚せい剤や「SD」などの薬物を青少年が乱用する事件も目立っています。好奇心から手を出す例が多いようですが、日常生活に不安や不満、さびしさなどを抱えている子どもほど薬物の誘惑を退けることが難しいといわれます。「スピード」「ヘス」などといった薬物の呼び名や、「ダイエット効果がある」「勉強がはかどる」といったウソに惑わされてしまう例もあるそうです。

家庭でも、普段から薬物の怖さを話し合える雰囲気をつくり、誘いを受けてもきっぱりと断れるように、子どもたちに意識づけることが必要です。

性非行

遊ぶ金ほしきで自 را性を売る少女

いじめ

他人の体や心の痛みを感じ取れないまま成長してしまった子どもは、ちよつとしたきっかけでいじめの子になってしまいます。周囲の大人が「いじめは絶対に許されぬ」という強い認識に立って、人の嫌がることはしない、させないということをしつかりと子どもに守らせてください。

いじめられる側の子は、自尊心から親や教師に訴えず、なんでもない様子をおおって明るくふるまうことがよくあります。大人から見えにくく、歯止めのないままエスカレーターしてしまいがちなのが最近のいじめです。

自分の子どもがいじめられていることに気づいた場合は、まず子どもの話をよく聞き、なるべく早く学校の先生やスクールカウンセラーなどに相談してください。